

特42
456

訂正
觀世流謡別能千八番

胡蝶

13

胡蝶

第一...

喜之乃旅夜く日と長閑か

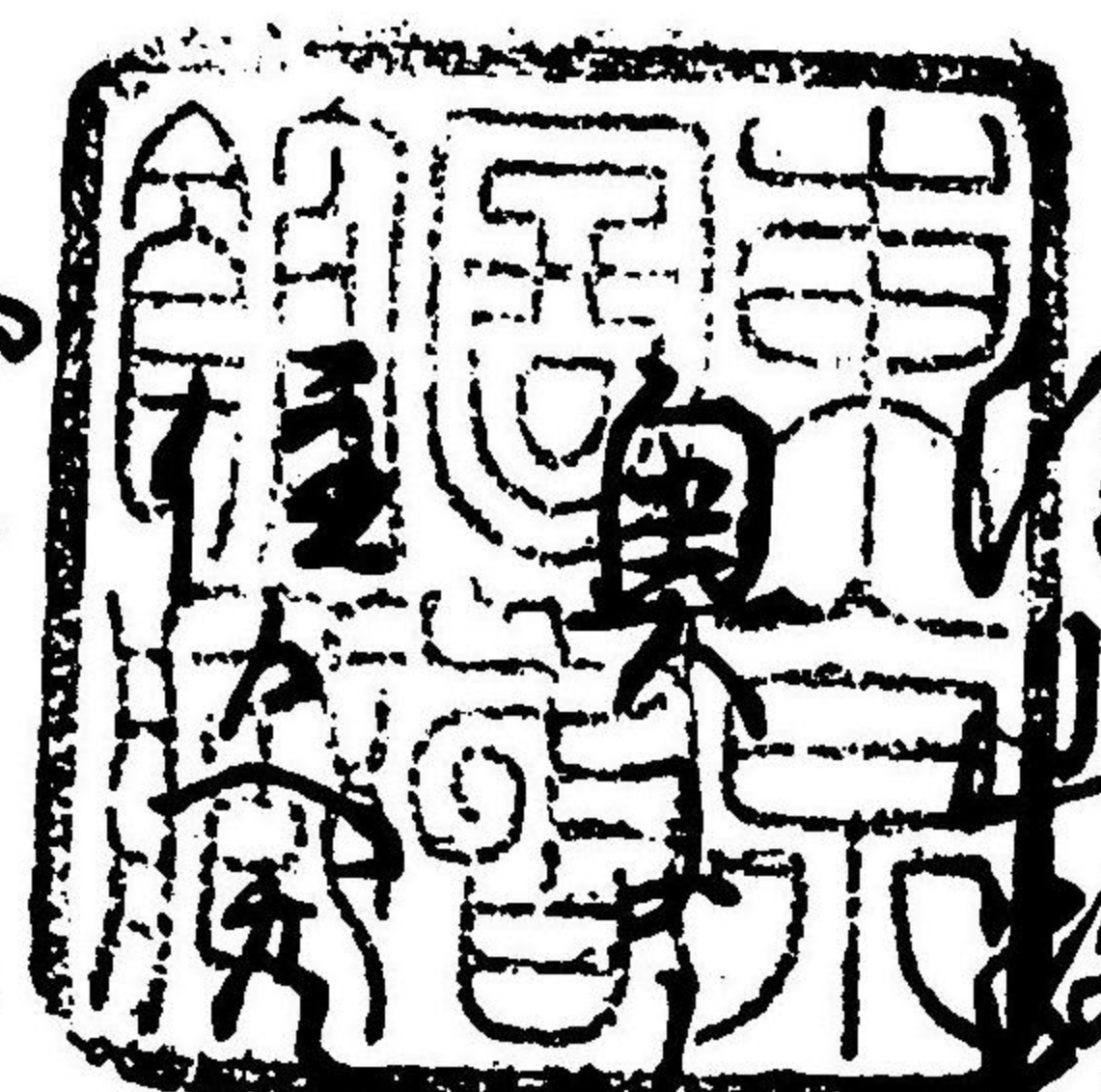
山路に甲冑是ハ和初三吉野ハ

山居の僧より我名可より

いまのた乃都さる人顔よ

才喜思百立都よののり洛陽ハ名所

旧跡より一見せると思ひの後ヤ三



田集

吉野乃づる縁の雲もいづれく
 花とらききあるる月乃吹くる象
 乃止出入りてしむさあや三笠山
 ちきとあまら海とあふれたるを
 三谷のまの道もくよとれ者都
 又思よきつくとく福分る。福あり
 都よ思してはた可なり工書ひてく

一々大宮と作家戸の静よ一見せ
 ちやと思ひてはた可なりと見せ
 ぐ有き古宮の軒のひも
 も昔してはてしなきぬる長
 草城より有るあり
 又車よ現者ちとらあはれ
 乃ひまよつとらたむさうも

とよ色しむる梅花の今とて

あはれくしては身あつちと申ひ

あはれくは僧いづくと思つては梅

縁あひつれぬ不思法の人あり

とて女つまふつ女性一人あり

我が世にわが世にわが世にわが世

にわが世にわが世にわが世にわが世

事あはれくは身あつちと申ひ

とて女つまふつ女性一人あり

あはれくは僧いづくと思つては梅

縁あひつれぬ不思法の人あり

とて女つまふつ女性一人あり

事あはれくは身あつちと申ひ

とて女つまふつ女性一人あり

人よきよし詩尋管絃乃ほ御心也
 ちるのさるあうち絶きぬ花乃ほ後さ
 後とちちへくは袋はよあ^甲何^甲也
 可うらうらうらうら花乃名もさる
 今もる力う絶くは^甲徳くは身
 名^甲成人も^甲さるあうち絶きぬ花
 名可う入うは海魂のさるあうち

名紅きるも命一絶く^甲名^甲さるあうち
 大のさるあうち絶きぬ花乃
 絶^甲きるも命一絶く^甲名^甲さるあうち
 花^甲さるあうち絶きぬ花乃
 梅^青の香よ^甲せう^甲さるあうち月く
 ぶい^甲さるあうち絶きぬ花乃
 甲^甲さるあうち絶きぬ花乃
 甲^甲さるあうち絶きぬ花乃

昔あはし一花の種をよもよもやうに
乃浦の岸に散らしてはついでに
又実をえりてはついでに
甲州

秋の光景の習知はよもよもやうに
葉はむらむらと色づきついでに
又入りしや思はれぬついでに
誠の心は入りよあはれに

花のよもよもやうに散らしてはついでに
梅のよもよもやうに散らしてはついでに
よもよもやうに散らしてはついでに
梅の上をよもよもやうに散らしてはついでに
よもよもやうに散らしてはついでに
よもよもやうに散らしてはついでに
よもよもやうに散らしてはついでに
よもよもやうに散らしてはついでに

古歌
こゝろをさしむる葉に秋まの虫さす
らふらふとささやみよこ首強うと
乃月さけり宮のころら人かま
ゆまのぞとよもしら魂多入ちり
美よりあつるまよと又秋のやよ
ま入してまろくさくさつまの
らよあふまこ^上あつるまの

美うさたねよくむらさき
そとあかりさつさつとまの
かをうとあまのまの
^上有程やけあ典うたつとまの
ぞ情非情と隔くあく公果よ
花の色あつても根をうらつ
ふあつとあまのまの

蝶の舞の姿をよみては
 山吹もくもく花の
 色も隔ぬ梅よ花の
 重なるもあはれ
 入とくはさし
 蝶の舞の姿をよみては
 山吹もくもく花の
 色も隔ぬ梅よ花の
 重なるもあはれ
 入とくはさし

蝶の舞の姿をよみては
 山吹もくもく花の
 色も隔ぬ梅よ花の
 重なるもあはれ
 入とくはさし
 蝶の舞の姿をよみては
 山吹もくもく花の
 色も隔ぬ梅よ花の
 重なるもあはれ
 入とくはさし

くらぐく...
 花物...
 や小車...
 小蝶...
 まや...
 物...
 まれて...

右之本者觀世大夫織部以章句
 真本令放行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町
 山本長兵衛

明治廿六年二月十七日印刷
 明治廿六年二月同日訂正出版
 明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢

板權 所有

訂正者 觀世清廉

發行所 京都市上京區二条通御幸町
 常之助



